ＩＴサービス・ソフトウェア (注)

１．評価対象企業（13 社）

日鉄ソリューションズ、ＴＩＳ、野村総合研究所、オービック、トレンドマイクロ、日本オラクル、オービックビジネスコンサルタント、伊藤忠テクノソリューションズ、大塚商会、ネットワンシステムズ、日本ユニシス、エヌ・ティ・ティ・データ、ＳＣＳＫ

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）本年度、業種名を従来の「コンピューターソフト」から変更した。

２．評価方法

(1)　評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	3	30
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	5	31
③フェア・ディスクロージャー	**フェア・ディスクロージャー**	2	12
④コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示	**コーポレート・ガバナンス関連**	2	16
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	2	11
計		14	100

（注）評価項目の内容および配点は 135 頁参照

(2)　評価実施アナリストは 15 名（所属先 15 社）である。（136 頁参照）

３．評価結果

(1)　**総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」（134 頁）参照）

①　本年度は、評価項目の整理・統合化を目的として、評価分野全般において内容変更、配点変更（内容変更を含む）、または項目削除を行い、評価を実施した。このため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は、67.2 点（昨年度 68.9 点）であった。なお、総合評価点の標準偏差は 15.5 点（昨年度 15.8 点）となった。

②　5 つの評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 65%（昨年度 70%）、**説明会等**が 71%（昨年度 72%）、**フェア・ディスクロージャー**が 81%（昨年度同率）、**コーポレート・ガバナンス関連**が 57%（昨年度 55%）、**自主的情報開示**が 63%（昨年度同率）となり、昨年度に比べ、**コーポレート・ガバナンス関連**が改善したが、**経営陣の IR 姿勢等**および**説明会等**は低下し、他の 2 分野は同率であった。

③　評価項目について見ると、全 14 項目のうち次の 2 項目が平均得点率で 80%以上となった。

(a)「外国人投資家向けの IR 活動（海外 IR・英文による情報提供）に努めていますか」（平均得点率 89%〔昨年度 77%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：100%10 社・50%3 社）

(b)「説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか」（平均得点率 85%〔昨年度同率〕）（得点率：100%

11 社・0 点 2 社）

④　一方、次の 2 項目は、平均得点率が 50%台以下となり、低水準となった。

(c)「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか」（平均得点率 43%〔昨年度 45%〕）（得点率：10%台 2 社・20%台 4 社・30%台 2 社）

(d)「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）が、十分に説明されていますか」（平均得点率 53%〔昨年度 50%〕）（得点率：10%台 1 社・20%台 2 社・30%台 3 社）

⑤　非財務情報関連の次の項目（**自主的情報開示**の中の 1 項目）については、昨年度に比べ、平均得点率は 10 ポイント上昇した。

・「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいますか」（平均得点率 63%〔昨年度 53%〕）（得点率：90%台 1 社・80%1 社・70%台 4 社・60%台 1 社・50%台 3 社・40%台 2 社・30%台 1 社）

⑥　なお、複数の企業に対して、新型コロナウイルス関連の影響をどの程度織り込んだ計画なのかを示してほしい、との声が寄せられた。

(2)　上位 3 企業の評価概要

第 1 位　野村総合研究所（ディスクロージャー優良企業 4 回連続 12 回目〕、総合評価点 86.1 点〔昨年度比－0.9 点〕）

①　同社は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉85%）、**コーポレート･ガバナンス関連**（83%）、**自主的情報開示**（80%）が第 1 位、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 1 位（100%）、**説明会等**が第 2 位（86%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していること」および「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が共に最も高い評価となった。また、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」も評価された。これらの結果、この分野において第 1 位となった。

③　**説明会等**においては、「セグメントの分類が的確であり、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメント変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」が評価された。これに関し、M&A の各セグメントへの影響が分かりにくいとの声が寄せられた。また、「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」も共に評価された。加えて、「説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できること」および「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していること」が共に満点評価となった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、2 項目共に満点評価となった。

⑤　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていること」が最も高い評価となった。これに関し、自己株式の償却基準まで示している点を評価する声が寄せられた。また、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）が十分に説明されていること」も評価され、トップと僅差であった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」 が第 2 位に大差（14 ポイント）をつけた。これに関し、ESG 説明会の開催や、統合報告書、ESG デー

タブックを評価する声が寄せられた。また、「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」が同得点第 1 位となった。これらの結果、この分野において第 1 位の評価となった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第 2 位　ＴＩＳ（ディスクロージャーの改善が著しい企業、総合評価点 83.4 点〔昨年度比＋5.2 点、一昨年度比＋8.0 点〕、昨年度第 6 位〔一昨年度同得点第 4 位〕）

① 同社は、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 1 位（100%）、**コーポレート･ガバナンス関連**が第 2 位（82%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（81%）、**説明会等**（84%）、**自主的情報開示**（71%）が同得点第 4 位となった。昨年度に比べ、全ての分野の得点率が改善し、総合評価点および順位の上昇（共に上昇幅第 1 位）につながった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」が最も高い評価となった。これに関し、「事業説明会（ペイメント）」を評価する声が寄せられた。また、「決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していること」および「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が共に評価された。

③ **説明会等**においては、「利益増減要因が明確かつ十分に説明されていること」、「セグメントの分類が的確であり、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメント変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が共に評価された。加えて、「説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できること」および「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していること」が共に満点評価となった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、2 項目共に満点評価となった。

⑤ **コーポレート・ガバナンス関連**においては、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）が十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていること」も評価された。

⑥ **自主的情報開示**においては、「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」が同得点第 1 位となった。ただし、一部リスク情報に関して、より積極的な開示を求める声もあった。なお、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」については、第 6 位（トップと 20 ポイント差）となった。

同社はこのようにディスクロージャーの改善が著しいので、「**ディスクロージャーの改善が著しい企業**」に選定した。

第 3 位　伊藤忠テクノソリューションズ（総合評価点 82.8 点〔昨年度比－1.1 点〕、昨年度第 2 位）

① 同社は、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 1 位（100%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（83%）、**説明会等**（85%）、**自主的情報開示**（72%）が第 3 位、**コーポレート･ガバナンス関連**が第 4 位（73%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門に十分な情報が集積されており、IR 担当者と有益なディスカッションができること」が高く評価された。また、「決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していること」および「有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していること、併せて、IR 部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していること」も共に評価された。なお、情報通信事業説明会や 5G 説明会を評価する声が寄せられた。

③　**説明会等**においては、「利益増減要因が明確かつ十分に説明されていること」が最も高い評価となった。また、「セグメントの分類が的確であり、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていること、セグメント変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていること」および「顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画が十分に記載されていること、また変動要因について十分に説明されていること」が共に評価された。さらに、「説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できること」および「四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していること」が共に満点評価となった。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、2 項目共に満点評価となった。

⑤　**コーポレート・ガバナンス関連**においては、「資本政策（キャッシュポジション、金庫株等）、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていること」が第 4 位、「中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE 等）が十分に説明されていること」が第 6 位にとどまった。

⑥　**自主的情報開示**においては、「事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていること」が同得点第 1 位となった。また、「非財務情報（ESG 情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいること」については同得点第 4 位となった。これに関し、統合報告書を評価する声が寄せられた。

以　上

2020年度　ディスクロージャー評価比較総括表　（ITサービス・ソフトウェア）

（単位：点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目3（配点 30点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目5（配点 31点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 12点）		4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示 評価項目2（配点 16点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目2（配点 11点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4307　野村総合研究所	86.1	25.4	1	26.6	2	12.0	1	13.3	1	8.8	1	1
2	3626　TIS	83.4	24.4	3	26.1	4	12.0	1	13.1	2	7.8	4	6
3	4739　伊藤忠テクノソリューションズ	82.8	24.9	2	26.3	3	12.0	1	11.7	4	7.9	3	2
4	8056　日本ユニシス	75.7	20.0	5	24.7	6	12.0	1	11.2	6	7.8	4	3
5	7518　ネットワンシステムズ	75.4	19.3	7	26.1	4	12.0	1	11.3	5	6.7	7	4
6	9719　SCSK	74.8	19.3	7	26.7	1	9.0	10	11.8	3	8.0	2	4
7	9613　エヌ・ティ・ティ・データ	73.5	20.1	4	23.8	8	12.0	1	10.0	7	7.6	6	7
8	2327　日鉄ソリューションズ	68.2	19.6	6	24.6	7	12.0	1	6.1	10	5.9	11	8
9	4704　トレンドマイクロ	65.7	16.7	11	23.8	8	12.0	1	7.1	8	6.1	10	9
10	4716　日本オラクル	54.2	12.3	13	20.1	10	12.0	1	4.1	13	5.7	12	11
11	4768　大塚商会	50.1	18.2	9	15.4	11	3.0	11	7.0	9	6.5	8	10
12	4733　オービックビジネスコンサルタント	44.9	17.4	10	11.9	12	3.0	11	6.1	10	6.5	8	12
13	4684　オービック	38.4	15.0	12	10.4	13	3.0	11	5.0	12	5.0	13	13
	評価対象企業評価平均点	67.16	19.43		22.03		9.69		9.06		6.95		

2020年度評価項目および配点（ITサービス・ソフトウェア）
【評価対象期間：2019年7月～2020年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（３０点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・決算説明会などに経営トップが自ら出席して経営戦略等を十分に説明していますか。	**10**
(2)IR部門の機能	
①IR部門に十分な情報が集積されており、IR担当者と有益なディスカッションができますか。	**10**
②有益な主要事業に関する説明会・技術説明会等を開催していますか。併せて、ＩＲ部門以外のセクションへのインタビュー等について積極的に対応していますか。	**10**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示（31点）	**配点**
(1)説明会、インタビューにおける開示　〔連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える)〕	
・利益増減要因は明確かつ十分に説明されていますか。	**4**
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示　〔連結中心(連結会社がない場合は「単独」と読み替える)〕	
①説明会資料等の付属資料が短信と同日に閲覧できますか。 ［閲覧できる：3点　閲覧できない：0点］	**3**
②セグメントの分類は的確であり、かつ売上高および利益が四半期ベースで十分に開示され、また変動要因について十分に説明されていますか。セグメント変更があった場合（合併等を含む）、過去と比較可能な情報が十分に開示されていますか。	**8**
③顧客業種別売上高構成、顧客規模別売上高構成、主要顧客名等が十分に記載され、費用の主要項目（労務費、外注費、機器販売原価等）および従業員数等の実績および計画は十分に記載されていますか。また変動要因について十分に説明されていますか。	**8**
④四半期ごとに業績動向に関する説明会（電話会議を含む）を開催していますか。 [全て開催：８点　その他：0点]	**8**
3．フェア・ディスクロージャー（12点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・決算説明会の状況（質疑応答を含む）が、終了後同日中に電話やウェブキャストで視聴等ができますか。　[終了後同日中にできる：6点　後日できる：3点　できない：0点]	**6**
(2)外国人投資家向け情報提供	
・外国人投資家向けのＩＲ活動（海外ＩＲ・英文よる情報提供）に努めていますか。　［海外IR・英文による情報提供あり：6点　海外IRのみ：3点　英文による情報提供のみ：３点　なし：0点］	**6**
4．コーポレート・ガバナンスに関連する情報の開示（16点）	**配点**
(1)目標とする経営指標等	
・中・長期経営計画を公表し、達成のための具体的方策およびその後の進捗状況、重視する経営指標（例えば、営業利益率、ROE等）が、十分に説明されていますか。	**10**
(2)資本政策、株主還元策の開示	
・資本政策(キャッシュポジション、金庫株等)、株主還元策（配当性向、自社株買い等）に関し十分に説明されていますか。	**6**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（11点）	**配点**
①事業または財務上のリスク情報（不採算案件の発生、情報漏洩、製品・サービスの不具合、リスク資産、関連会社の動向等）の開示が十分になされていますか。	**6**
②非財務情報（ESG情報、統合報告書等）の開示に積極的に取り組んでいますか。	**5**

IT サービス・ソフトウェア専門部会委員

部　会　長	上野　　真	大和証券
部会長代理	菊池　　悟	SMBC 日興証券
	黒木　文明	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	桜井　雄太	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	田中　　誓	ｺﾞｰﾙﾄﾞﾏﾝ･ｻｯｸｽ証券
	田中　秀明	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
	堀　　雄介	みずほ証券

評価実施アナリスト（15 名）

浅川　直騎	朝日ﾗｲﾌ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	須々木　亮祐	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石井　孝一郎	三菱 UFJ 信託銀行	田中　秀明	三菱 UFJ ﾓﾙｶﾞﾝ･ｽﾀﾝﾚｰ証券
岩渕　啓介	岡三証券	土門　泰	りそなｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
上野　真	大和証券	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ･ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大谷　章夫	東京海上ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	堀　　雄介	みずほ証券
菊池　悟	SMBC 日興証券	前田　俊明	QUICK
黒木　文明	ﾆｯｾｲ ｱｾｯﾄ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山科　拓	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
桜井　雄太	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ		

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。